

選者献詠句

選者名	献 詠 句
稲畑廣太郎	星月夜芭蕉の旅路俯瞰して ほしづくよばしょう たびじふかん
井上 弘美	翁忌の夜の片袖通し土間 おきなき よる かたそでとお どま
井上 康明	しぐれ忌の猿のこゑを聴きすます き ましら
小川 軽舟	蓑虫の弊衣破帽ぞ頼もしき みのむし へい い は ぼう だの
小澤 實	白峰を拝さず終り翁の忌 しらみね はい おわり おきな き
權 未知子	やはらかく猫は翁忌あゆみけり ねこ おきなき
坂口 緑志	雁塔の古寺に育ちし岩鶉 がんとう こ じ そだち いわづぐみ
谷口 智行	とことはにうしほにけぶる紀のさくら き
西村 和子	秋深しここにも天守物語 あきふか てんしゅものがたり
長谷川 權	はるかなる一つの声と冬ごもり ひと こえ ふゆ
星野 椿	俳諧の歴史と共に去年今年 はいかい れきし とも こぞ ことし
堀本 裕樹	芭蕉忌や行く雲のこゑ聞かむとす ばしょうき い くも き
正木ゆう子	かへりきてなほ帰心ある秋の暮 きしん あき くれ
三村 純也	朴の花霧にたゞよひはじめたる ほお はなきり
宮坂 静生	米寿まで夢の枯野に惹かれ生き べいじゅ ゆめ か れの ひ
宮田 正和	伊賀盆地山裾かくも秋の晴 い が ぼんち やますそ あき はれ
片山由美子	時雨忌の埤に帰る鳥の声 しぐれ き ねぐら かえ とり こえ
Hidetake Kawaraji 河原地 英武	神木の横の若木や初日の出 a young tree beside the sacred tree－ the first sunrise of the year しんぼく よこ わかぎ はつひ で